設立50周年を迎えられた日本トンネル技術協会への敬意と祝意を込めて

(公社)土木学会会長
池　内　幸　司

(一社)日本トンネル技術協会が設立50周年という節目を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます．日本におけるトンネル・地下空間技術の中核を担ってこられた貴協会がこのような節目を迎えられたことは，関係者の皆様のたゆまぬ努力と熱意の賜物であり，深く敬意を表します．

貴協会は，1970年のOECD(経済協力開発機構)のトンネル諮問会議における勧告を受けて国際協力の必要性が高まる中で，産官学の連携のもとで1975年に設立されました．以来，貴協会は日本代表として国際トンネル協会(ITA)に参加し，各国との技術交流を通じて，日本のトンネル技術の高度化と国際展開を推進してこられました．複雑な地質条件を克服して培われた日本の技術は国際的にも高く評価され，交通，上下水道，防災などの分野で他国の発展にも寄与しています．

私自身，トンネル施工現場の視察経験は多くありませんが，限られた経験からだけでも，技術の進化を実感しています．山岳トンネルのNATM，都市トンネルの密閉型シールドや異形断面シールド，自動化や遠隔操作などの技術の導入により，施工・維持管理の現場は大きく進化しています．

とりわけ都市部では，狭隘な空間や他構造物との干渉を避けつつ，環境にも配慮した精緻な施工が求められています．そうした高度な要求に応えている関係者の高い技術力と不断の工夫に敬意を表します．また，交通，上下水道，防災，エネルギーなど，多様なインフラの地下空間への集積や重層的活用は，持続可能な都市づくりにも寄与しています．

一方で，老朽トンネルの増加や技術者の世代交代が進む中，技術と知識の継承，ICT活用による効率化，生産性向上が大きな課題となっています．こうした課題に取り組むには，産官学の連携が不可欠です．土木学会とは，トンネル工学委員会や地下空間研究委員会を通じて協働してきた実績があり，技術の共有や人材育成，政策提言の面でも意義深い取組みが行われてきました．こうした連携は，実務と学術の橋渡しの役割を果たしており，実効性の高い成果として社会に生かされていると考えております．

これまでに培われた技術と知見は，今後の社会基盤整備においても重要な役割を果たすものと確信しております．次代の技術者たちがその蓄積を引き継ぎ，新たな課題に挑み続けることで，日本の地下空間利用は一層の進化を遂げることでしょう．

最後に，貴協会が，今後とも地下空間活用の中核として，また国際協力の要として，その使命をより一層果たされることを心より祈念申し上げ，私の祝辞といたします．